

一週間ホルター心電図にて失神を伴う 17 秒の心停止を捉えた一例

◎小寺 香澄¹⁾、境田 知子¹⁾、高橋 ゆき¹⁾、上道 文昭¹⁾、天野 景裕²⁾
東京医科大学病院 中央検査部¹⁾、東京医科大学病院 臨床検査医学科²⁾

【はじめに】一週間ホルター心電図は、24 時間ホルター心電図では捉えきれない、不整脈や症状を伴う心電図変化を記録するのに有用である。今回、一週間ホルター心電図にて、失神を伴う 17 秒の心停止を記録した症例を経験したので報告する。

【症例】10 歳代 女性

【家族歴】母：若い頃心疾患で長期の入院歴と、複数回の意識消失あり。妹：痛みによる失神が複数回あり。

【既往】小学生の時初めて失神し、この時脳波検査を施行したが異常は見つからなかった。その後、年に数回程度の失神を繰り返していた。20××年 12 月、遊園地で開園を待っている時に失神。（痙攣、前駆症状なし）翌年 4 月に、他院からの紹介で当院受診となった。

【経過】心電図、心エコー図検査、心臓 MRI 検査では、有意所見なく、器質的な異常も認めず。トレッドミル検査では心拍応答は正常であった。一週間ホルター心電図を施行し、取り外しの際、行動記録に失神の記載があり、記録 2 日目に症状と一致する 17 秒の心停止を認めた。主治医に

連絡をし、CCU に緊急入院となった。Head-up tilt test : HUT 試験で、血圧低下と R-R 延長があり、同時に失神を認めたため混合性神経調節性失神と診断された。薬物治療シロスタゾール 100mg を開始、一週間後に行った HUT 試験では、R-R 延長と失神を認めなかった。入院当初は Pacemaker : PM の挿入を検討していたが、薬物治療の方針となり退院となった。その後胸痛があり、シロスタゾール 50mg に減量したところ再度失神。薬物療法では失神制御困難と判断され、同年 7 月 PM 植込みとなった。術後の経過は良好で、失神は認めず退院となった。

【考察】一週間ホルター導入により、徐脈や一過性心房細動、頻脈、狭心症の患者の心電図変化をより捉えやすくなった。通常の 24 時間ホルター心電図より検出率が高く、リード線を含めたディスプレイ電極により入浴も可能で、ほぼ通常の生活が出来るため、患者への負担が少ない。

【結語】失神をおこす患者の不安や心情は計り知れない。一週間ホルター心電図により、失神や出現率が低い疾患の診断に役立つと考えられる。